

松本忠司名誉教授記念号の発刊によせて

学長 山 田 家 正

この度、人文研究第 85 輯の発刊にあたり、本学の発展に多大の貢献をされた小樽商科大学名誉教授松本忠司先生のご業績をたたえ、本輯を「松本忠司名誉教授記念号」とすることになりました。

先生は早稲田大学第二文学部、同大学大学院文学研究科修士課程でロシア文学、特にゴーリキーの研究に専念され、昭和 32 年大学院修了と同時に本学ロシア語担当講師として着任されました。詳しいご経歴は別記の通りであります。昭和 43 年に教授になられてからは、本学短期大学部主事、附属図書館長を歴任され、昭和 59 年には学長事務取扱をされるなど、文字通り本学の重鎮として 35 年の長きに亘って職責を果たされました。平成 4 年 3 月に定年により本学をご退官、名誉教授の称号を授与されましたが、小樽のご自宅でライフワークのゴーリキーのご研究に没頭しておられますし、本学の非常勤講師をお願いしておりますので、日頃先生の警咳にふれる機会のあることは我々にとって大変嬉しいことでもあります。先生はゴーリキーのみならず、戯曲研究、ロシア・インテリゲンツィア精神史など 19 世紀から 20 世紀にかけてのロシア文学に広く研究の目を向けておられ、その博識と卓見によって北海道のみならず、国内のロシア文学研究の指導者として大きな存在であります。

28 歳という若さで本学に着任されたために、当時の学生とは友人のような関係で、学内のロシア語劇を熱心に指導されるなどの昔話を伺ったことがあります。私が直接ご教示頂いたことや、諸先生方による講義内容、松本語録、あるいは無数にある逸話等から、現在では少なくなった風格ある大学人としての像が浮かんできます。先生を慕う卒業生の多さはロシア語を通じて

のもの以上に先生の人柄によるものであることを雄弁に物語るものでありましょう。かくのごとく、本学は35年間にわたって松本先生という名物教授に恵まれました。

先生が所属された言語センターも着実に発展しつつありますが、大学の転換期にある現在、大所、高所から本学を見守って頂きたいと存じます。先生の本学に対するご貢献に心からの感謝の意を表して発刊のご挨拶と致します。